

支部 Newsletter

北海道支部

◎第58回大会の開催(報告)

日本英文学会北海道支部第58回大会が、10月5日(土)・6日(日)の両日に、北海道大学人文社会科学総合教育研究棟において開催されました。初日に特別講演(後藤和彦氏、早瀬尚子氏)、セミナー(本多啓氏)、市河賞受賞記念講演(高橋英光氏)を開催。2日目にシンポジウム(文学部門「Lost/Found in Cinematisation—文学作品の映像化をめぐる—」板倉宏予(司会)・沢辺裕子・熊谷由美子・及川陽子、語学部門「人間と言語」濱田英人(司会)・奥聡・野村益寛)を開催しました。また、2日間にわたり、文学部門4件、語学部門4件の研究発表がありました。

参加者は2日間の延べ人数で約60名でした。多くの方々にご参加頂きありがとうございました。なお、詳細は北海道支部ホームページ(<http://www.elsj.org/hokkaido/annualmeeting.html>)からご覧いただけます。

◎第86回日本英文学会年次大会の開催について

第86回日本英文学会年次大会が、2014年5月24日(土)・25日(日)の両日に、北海道大学で開催されます。今大会は北海道支部が運営を担当します。大会終了まで当支部は非常に大きな責任と活発な参加が求められます。会員の皆様におかれましては、第86回大会に向けてご協力とご参加をお願いすることと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。詳細は日本英文学会のホームページ(<http://www.elsj.org/meeting/86th/86meeting.html>)に随時更新されます。

◎北海道英語英文学第59号、及び第59回大会について

北海道英語英文学第59号(英文學研究支部統合号第7号)の原稿を募集しています。締切は平成26年5月10日(必着)です。支部ホームページ「機関誌投稿規定」をご熟読の上、どうぞ奮ってご投稿ください(執筆要領に変更が生じた場合は、メール等で速やかにご連絡いたします)。

なお、第59回大会の詳細につきましては、

追ってメール等でご連絡いたします。今しばらくお待ちください。

◎電子メールアドレス登録のお願い

北海道支部事務局では、会員の方々に電子メールアドレス登録のご協力をお願いしております。支部からの連絡は、原則として電子メールを通して行っております。まだアドレスを登録されていない会員、及びアドレスに変更が生じた会員におかれましては、速やかに事務局(hokkaido@elsj.org)にご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

以上(文責 眞田敬介)

東北支部

◎第68回支部大会開催報告

第68回東北支部大会が、2013年11月23日(土)・24日(日)の両日に東北工業大学において開催されました。詳細は、東北支部ホームページ(<http://www.elsj.org/tohoku/>)からご覧いただけます。

◎若手研究者のためのトラベルグラントの規程改訂

トラベルグラントの助成対象となる学会と、年間助成額の上限が、東北支部の予算規模に見合った形へと縮小されました。詳細は東北支部ホームページをご確認下さい。

◎東北支部研究振興事業の次回締切

東北支部の研究振興事業の次回締切は、2014年4月1日です。応募希望者は、支部ホームページ上にある応募用フォーマットをダウンロードのうえ、事務局(tohoku@elsj.org)宛にご応募ください。

◎『東北英文学研究』第4号発行および第5号原稿募集

『東北英文学研究』第4号が『英文学研究 支部統合号』第6号に合本される形で発行されました。

また、現在『東北英文学研究』第5号の原稿を募集しています。締切は2014年4月30日です。支部ホームページにある投稿規程をご覧の上、事務局(tohoku@elsj.org)宛に、どうか奮ってご応募ください。

関東支部

◎理事会報告

2013年11月2日(土)に、日本女子大学目白キャンパスにおいて2013年度第3回理事会が開催され、以下の事項が報告、審議されました。

【議事録承認】

【報告事項】

1. 委員会報告(大会準備委員会／編集委員会)
2. その他

【審議事項】

1. 他学会のイベントへの「関東支部」としての参加について【別添資料】
2. 事業計画進捗状況について
3. その他

◎関東支部第8回大会(2013年度秋季大会)報告

日本英文学会関東支部第8回大会(2013年度秋季大会)が、2013年11月2日(土)、日本女子大学目白キャンパス、百年館低層棟において行われました。

プログラムは以下の通りです。

【研究発表】 12:30-13:30

第一会場(百201教室)

キルゴア・トラウトの三度の埋葬—カート・ヴォネガット『タイムクエイク』の政治的読解
(発表者)一橋大学大学院 青木 耕平
(司 会)東京大学准教授 諏訪部浩一

第二会場(百202教室)

「スロー」で日常的な破局—White Noiseにおける汚染の表象とエコクリティシズム—
(発表者)青山学院大学大学院 日野原 慶
(司 会)早稲田大学教授 都甲幸治

第三会場(百203教室)

「タイプの世界」—ヘンリー・ジェイムズ『大使たち』におけるオーサーシップとジェンダー
(発表者)東京大学大学院 加勢俊雄
(司 会)青山学院大学教授 福田敬子

【ワークショップ】 12:30-13:30(百204教室)

英語教育における〈文学教材〉の意義と実践—リーディング指導法の検討を中心に

(司会・発表者)立教大学兼任講師 関戸冬彦
(発表者)戸板女子短期大学専任講師 山本洋平
(発表者)順天中学校・高等学校教諭 和田 玲
(発表者)文教大学付属中学校・高等学校教諭 石井 潤

【特別講演】 13:40-15:10(百205教室)

‘As I practised conjecture more, I came to trust it less’: Jane Austen, R.W. Chapman, and the Dark Art of Emendation

Dr. Peter Sabor (Professor, McGill University)

【英米文学部門シンポジウム】 13:40-15:40

(百301教室)

workと20世紀転換期の英米文学

(司会・講師)一橋大学教授 井川ちとせ
(講師)茨城大学准教授 市川千恵子
(講師)大東文化大学准教授 中垣恒太郎
(講師)東洋大学教授 村山 淳彦

【総会】 15:50-16:20(百206教室)

【メインシンポジウム】 16:30-18:30(百206教室)

古典の困難—それでも、やっぱり、教えたい?

(司会・講師)東京大学准教授 阿部公彦
(講師)慶應義塾大学教授 井出 新
(講師)立教大学教授 後藤和彦
(講師)東京大学教授 高橋和久

【懇親会】 18:45-20:30

(日本女子大学生協目白食堂「ランチェ」)

◎『関東英文学研究』第7号について

『関東英文学研究』第7号の原稿を2014年5月15日締切で募集いたします。募集要項の詳細につきましては、日本英文学会関東支部のホームページ、および『関東英文学研究』第6号の巻末をご覧ください。多数の応募をお待ちいたしております。

◎関東支部第9回大会(2014年度夏季大会)について

関東支部第9回大会が6月21日(土)成城大学で開催されます。研究発表／ワークショップ

プの応募締切は2014年3月31日です。詳細については日本英文学会関東支部のホームページをご覧ください。

以上(文責 佐藤和哉)

中部支部

◎支部長挨拶

今から約10年前に決まった信州大学、金沢大学、南山大学、中京大学という事務局担当校のしんがりをつとめ、約1年が経過しようとしています。日々の業務もさることながら、今後約10年の目処をつけるという仕事も、最後に重くのしかかってきました。幸い、みなさまのご協力により、事務局については、15年、16年、17年と静岡大学・名古屋工業大学が、18年、19年と三重大学が、20年、21年と椋山女学園大学・岐阜大学が、それぞれ引き受けてくださいました。支部大会開催校も、14年が中京大学、15年が名古屋工業大学と決まり、現在、そのあとの開催校を模索中です。そして、なによりもありがたいのは、17年の全国大会を静岡大学が引き受けてくださったことです。また別途報告の通り、さまざまな改革に取り組み、より風通しのよい組織づくりを行ってまいりました。懸案の9割をこなし、のこり1割についても、内田恵評議員(静岡大学)を議長に改革を進めています。この過程で、13年末の現在、現役員以下多くの会員の間で実にさまざまな議論が行われています。ときに3桁にもおよぶ関連メールを読むにつけ、行き着くのは、そうした迷路のような事務処理さえも意義あるものにしようほどの本来の研究とは、いったいどのようなものであるべきかという単純な問いです。今後、どの大学が事務局を担うこととなろうとも、その関係者が一時研究休眠となることのないよう、その負担を役員全体で共有すべく、さらに組織の整備を進める所存ですので、どうかよろしくご協力のほど、お願い申し上げます。(梅正行)

◎英文学会HP改善に関するアンケート

本部事務局からの依頼により、メールアドレスを登録している会員対象に2013年8月10~19日まで英文学会HP改善に関するアンケートを行い、25名の方から回答がありました。

ご回答下さった方々に御礼申し上げます。

◎第65回支部大会

2013年10月5~6日開催の第65回支部大会は盛会のうちに終わりました。開催校の椋山女学園大学関係者の皆様、講師、発表者、司会者の皆様、ご来場の皆様、出版社、書店の皆様誠にありがとうございました。

講師、発表者の方には9月刊行のプロシーディングスへの投稿の権利があります。詳細は4月初旬にご連絡いたします。多くの投稿をお待ちしております。

開催にあたり、大幸財団から8万円の助成金を受けることができました。この場をお借りして大幸財団に御礼申し上げます。

◎支部総会報告

2013年10月5日に支部総会が開催され、支部運営に関する重要事項が複数決定されました。総会議事録は支部HPに掲載しました。

本ニュースレターでは会員の皆様に特に関連があることをご報告申し上げます。

1. 支部規約、理事選挙規定改正
2011年度からの完全支部体制に合ったものに改正しました。2013年10月5日付で発効です。
2. 支部大会研究発表応募要領改正
2014年度から、応募時点で英文学会会員歴が6ヶ月以上あることが条件になり、応募用紙、審査用発表要旨、プログラム用要旨、当該年度の英文学会年会費支払を証明できるもの1点の提出が必要になります。詳細はHP応募要領をご覧ください。
3. 『中部英文学』投稿規定改正
2014年度から、原稿提出はE-mailのみ(紙媒体不要)、カヴァーレター、当該年度の英文学会年会費支払を証明できるもの1点の提出が必要になります。掲載された論文はすべて電子化されます。詳細はHP及び支部統符号掲載の投稿規定をご覧ください。
4. 中部優秀論文賞と中部新人優秀論文賞創設
2014年度から『中部英文学』投稿論文の中で特に優秀なものに賞が授与されます。賞金は5万円です。詳細はHP及び支部統符号

掲載の賞規定をご覧ください。

5. 日本英文学会中部支部学術振興基金創立
日本英文学会中部支部学術振興基金創立
と規約が承認されました。本基金から論文
賞賞金が支出されます。

◎『中部英文学』34号投稿

『中部英文学』34号投稿締切は4月10日必着
です。ご希望の方は投稿規定を熟読の上、お
早目に必要書類送付と年会費支払をお願い申
し上げます。多くの皆様のご投稿をお待ちし
ております。

◎2014年度理事選挙

2014年度は理事選挙を行います。正会員の
皆様から候補者をご推薦いただき、15名の候
補者の中から投票により上位10名を理事に選
出するという手順になります。詳細は後日ご
連絡いたします。必ずご投票下さい。

◎第66回支部大会

第66回支部大会は10月18日(土)、中京大
学八事キャンパスで開催です。研究発表応募
締切は5月31日必着です。ご希望の方は応募
要領を熟読の上、お早目に必要書類送付と年
会費支払をお願い申し上げます。多くの皆様
のご応募をお待ちしております。

◎会員情報更新

氏名、住所、メールアドレス、勤務先、職
位等の異動があった方は速やかに英文学会本
部事務局と当事務局にご連絡お願い申し上げ
ます。

◎メールアドレス登録のお願い

経費削減と効率化のため、当事務局では支
部大会出欠確認などの会員の皆様への連絡を
メールで行うこととし、メールアドレスの登
録をお願いしております。現在、正会員、準
会員合わせて380名のうち約350名の方に支
部大会案内やHP更新のご連絡をメールで行っ
ております。

メールアドレス未登録の方には第65回支
部大会出欠確認を往復はがきで行いました。メ
ールアドレスをお持ちの方は件名メールアドレ

スとし、ご氏名、所属先、職位を事務局までメ
ールでご連絡ください。いただいた情報は中部
支部の業務にのみ使用します。

以上(文責 武井暁子)

関西支部

◎関西支部第8回大会について

2013年12月22日(日)11:00より、関西支部
第8回大会が龍谷大学大宮キャンパスにて開催
され、4件の招待発表を含む24件の研究発表と、
英米文学および英語学のシンポジウムが行わ
れました。天候にも恵まれて約200名の参加者
を数え、懇親会にもおよそ100名の出席者を得
て盛会裏に終わりました。

大会準備にご尽力くださった学会関係者の
皆様、および会場を提供くださった龍谷大学
関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

◎役員会および総会について

大会当日に開催された理事・評議員合同役
員会では、支部長から規約改正についての説明、
大会準備委員長と機関誌編集委員長からそれ
ぞれ事業報告があったほか、会計報告案が承
認され、第9回大会の開催校に立命館大学が選
出されました。また、総会では以上の件につ
いて報告がなされました。

◎機関誌第8号の投稿について

『関西英文学研究』第8号の投稿締切は4月末
日です。特にキャリアの浅い研究者による優
れた論文には奨励賞が与えられますので、奮
ってご投稿ください。

◎関西支部第9回大会の研究発表の応募について

関西支部第9回大会は、2014年12月21日
(日)(仮)に立命館大学で開催される予定です。
研究発表の応募締切は7月上旬の予定です。奮
ってご応募ください。

◎関西支部の各種事業について

現在関西支部では、支部機関誌の発行と支
部大会の開催に加えて、海外研究者招聘後援
事業、講演会補助事業、学会発表補助事業を行
っています。事業の趣旨に合致するケースがあ

りましたら、是非ご活用ください。

規約、役員、機関誌の投稿規定、奨励賞の選考基準、研究発表の応募要項、各種事業の詳細については、関西支部ホームページをご覧ください。

中国四国支部

◎中国四国支部第66回大会報告

平成25年10月19日(土)、20日(日)の両日、山口大学で中国四国支部第66回大会が開催され、盛会のうちに全プログラムを無事終了することができました。太田聡氏、正宗聡氏、根ヶ山徹氏をはじめとする開催校関係者のみなさんには大変お世話になりました。この場を借りましてあつく御礼申し上げます。

第1日目、19日は、新田玲子支部長による開会の辞でもって開会式が行われたあと、研究発表、特別講演、懇親会がありました。研究発表は、イギリス文学関係10編、アメリカ文学関係2編、英語学関係3編、英語教育関係1編、計16編の発表がありました。中尾佳行氏「*Chorus of Troilus and Criseyde* における“assege”―〈器〉(内、境界、外)の認知プロセスを探る―」の招待発表も含まれています。特別講演は岩崎宗治氏(名古屋大学名誉教授)「シェイクスピアと恋愛ソネットの伝統―英詩における近代―」(司会：広島大学教授 吉中孝志氏)でした。特別講演のあと、翠山荘で懇親会がありました。太田聡氏の司会のもと、楽しく料理と会話を楽しみました。多数のご参加どうもありがとうございました。

第2日目、20日には、福元広二氏(広島修道大学教授)の司会のもと、シンポジウム「英語史における Politeness 研究の可能性」が開催されました。福元広二氏「シェイクスピアにおける Politeness」、片見彰夫氏「中世キリスト教神秘主義者にみられる Politeness の表現」、椎名美智氏「喜劇と裁判記録における Politeness」、水野和穂氏「18世紀英語における Politeness を考える」の発表がありました。そのあと、高橋渡副支部長の閉会の辞をもちまして全日程を終了しました。本大会も昨年度に引き続き開催校(山口大学)のご協力により保育室を設置し、

1名の利用がありました。

◎理事会報告

支部第66回大会に先立ち、10月19日の午前中に理事会にて次の議題が審議されましたので、ご報告いたします。

1. 会計報告および会計監査

川島健事務局長が平成24年度会計報告を行い、会計監査(水野和穂氏、小野章氏)により正確に会計処理されていることが報告され、承認されました。

2. 次期開催校

平成26年度第67回大会は、10月25日(土)、26日(日)に香川大学で開催されることになりました。

3. 鳥取県理事の交替

鳥取県の代表理事の福元広二氏(鳥取大学)が平成25年4月より広島修道大学に転出されました。事務局からは、あらかじめ後任の理事を人選し、内諾を得て頂くよう福元理事に依頼しておりました。結果として、福元理事より福安勝則氏(鳥取大学)を推薦する提案があり、理事会で承認されました。

4. 『支部統合号』の電子化(CiNii)

本年6月、『英文学研究』(和文号)および *Studies in English Literature* (英文号)のバックナンバーの電子化の手続きを終了したとの連絡を本部事務局から受け、支部事務局では、第1号から第5号の掲載論文16本の執筆者に、CiNiiへの電子化掲載の許諾を伺うメールを送りました。結果、執筆者全員から掲載許可の返事をいただきました。

第6号の執筆者5名については、電子化掲載の可・不可が論文審査に影響することはないと伝えた上で、採用された場合にはCiNiiに掲載してよいかどうかをお伺いしました。4名から許可の返信を得ましたが、残り1名からは返信を受け取っておりません。しかし編集委員による審査の結果、上記5本の論文はすべて不掲載となったため、必然的にCiNii掲載に関して残り一名に事務局か

ら連絡を入れる必要もなくなりました。

また投稿規定第6条「掲載論文はPDF化し、執筆者の同意を得てホームページで公開する。なお、掲載論文の著作権は、執筆者本人と日本英文学会中国四国支部に帰属するものとする。」を「掲載論文を電子化して公開する権利は、日本英文学会が有するものとする。」に修正しました。第11条の末尾に「、平成25年10月19日一部改正」を追加しました。

5. 学会誌編集委員会規定

編集委員の改選はこれまで、任期を迎える編集委員が後任の編集委員を探して依頼することになっていましたが、前任の編集委員が後任を指名すると、人選が偏りがちです。そこで、編集委員会規程の第4条に関し、任期を迎えた編集委員の後任の人選は、編集委員会からの依頼を受けて理事会にて決定することを内規として定めることが承認されました。

6. 事務局職務の分掌

川島事務局長より事務局長補佐の仕事に分掌する提案(会計担当/会計以外の担当)があり、承認されました。

7. その他

川島事務局長が平成26年度に関西方面の大学へ転出します。来年度から1年間は、今林修元事務局長(広島大学)が事務局長を引き継ぐ提案がなされ、承認されました。

◎支部理事選挙

平成26年度は支部理事選挙開催の年に当たります。3月末に郵送する大会案内に理事会関連資料を同封し、会員へ郵送する予定です。10月25日(土)の理事会にて新支部理事を発表できるよう、準備を進めていきたいと思っております。

◎支部大会のお知らせと研究発表の募集

第67回大会を平成26年度10月25日(土)、26日(日)の両日、香川大学で開催いたします。発表募集締め切りは平成26年5月15日(木)です。たくさんのご応募お待ちしております。

◎学会誌の原稿の募集

支部学会誌『中国四国英文学研究』第11号(英文学研究支部統合号第7号)の原稿を募集いたします。締め切りは、5月15日(必着)です。投稿規程は、支部ホームページ(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/phoenix/chusi-eng/studies.html>)をご覧ください。こちらもたくさんのご応募お待ちしております。

以上(文責：新田玲子)

九州支部

◎日本英文学会九州支部第66回大会が2013年10月26日(土)、27日(日)の両日に鹿児島国際大学にて開催されました。

大会の運営に多大のご支援をいただいた、飯田敏博先生、小林潤司先生他、鹿児島国際大学の先生方、及び、学生の皆様に心よりお礼を申し上げます。

◎2013年度第2回支部編集委員会が2013年10月26日(土)に開催されました。

その後、支部評議員会・理事会の合同会議が開かれました。主な報告事項、議題は下記のとおりです。議事録は支部ホームページに掲載されています。

《編集委員会議事録》

- 『英文学研究』第29号(支部統合号 Vol. V)の刊行について
・第29号(掲載論文8篇)の刊行があったことが報告された。
- 『英文学研究』第30号(支部統合号 Vol. VI)について
・先に採用が決まった2篇と、再審査を経て採用となった2篇を合わせて、計4篇の論文が掲載されることが報告された。(2014年1月に刊行予定)
- 支部大会統合プロシーディングズについて
・第85回大会 Proceedings(付 2012年度支部大会 Proceedings)が9月15日に発行されたとの報告があった。
・Proceedingsの書式と締切の遵守を、指導教員の方々には院生等に対して指導してほしいと事務局より依頼があった。

- ・今後様々な学会活動をしていく上では経費削減の可能性もあるが、今のところ、支部大会資料統合版、英文学研究統合版、プロシーディングズ統合版の経費については、それを削減する必要はないという見解で一致した。
4. 九州支部「優秀論文賞」、「奨励賞」の審査について
 - ・掲載予定の4本の論文を検討した結果、今回は優秀論文賞、奨励賞とも該当論文はなしに決まった。
 5. 九州支部学会賞（優秀論文賞、奨励賞）の対象（資格要件）について
 - ・優秀論文賞は原則、査読者3名がAもしくはA-の評価のものを候補とすることでおおむね了承され、最終決定は次回の編集委員会で審議することになった。
 - ・院生も含め、全ての論文を優秀論文賞の候補とすることが改めて確認された。
 - ・奨励賞については、日本英文学会新人賞規定に基づき、応募時に満37歳未満であり、修士号取得後5年以内であるという案が示されたが、年齢に関しては再度検討し、また、評価は編集委員が妥当と認めた論文とすることを、次回の編集委員会で審議決定することになった。
 6. 編集委員の交代について
 - ・大島由起子氏（米文学）の退任に伴い、その後任を米文学の編集委員で協議して提案することになり、後任には、鹿児島大学教授の竹内勝徳氏が決定した。
【この結果、4月からの新編集委員会は、下記の構成になります（敬称略）。
（英文学）鶴飼信光（副委員長）、太田一昭、木原謙一、小林潤司、宮原一成、村里好俊（米文学）小谷耕二（副委員長）、高橋勤、竹内勝徳、早瀬博範、山里勝己（英語学）大橋浩（委員長）、登田龍彦、西岡宣明、向井毅、山田英二】
 7. 『英文学研究支部統合号』の電子化について
 - ・統合号の電子化について、投稿規定にある通り、公開する権利が日本英文学会にあることを確認した。
- 《評議員会・理事会議事録》
1. 活動報告
 - ・例年通りの支部大会資料統合版、英文学研究統合版、プロシーディングズ統合版の発行に加え、今年度は招待発表者として、英文学部門2名、米文学部門1名、英語学部門1名、招聘したことが報告された。
 2. 会計報告
 - ・事務局長の難波美和子氏より、平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の会計報告がなされ、監査の小林潤司氏から確認の報告があった。
 3. 統合号出版経費負担について
 - ・経費負担について以下の通り報告があった。
①支部大会資料統合版（支部分担金67,305円）、②プロシーディングズ統合版（支部分担金85,400円）、③『英文学研究』統合版（支部分担金は年明けに本部から請求予定）
 4. 支部理事選挙について
 - ・今年度はなく、来年度実施予定。
 5. 編集委員会報告
 - ・『九州英文学』第30号の結果報告があった。投稿総数11本（英文学4本、アメリカ文学、6本、英語学1本）中、採用論文は4篇（英文学2本、アメリカ文学2本）であった。
 - ・優秀論文賞、奨励賞の該当論文はなかった。
 - ・優秀論文賞、奨励賞の審査基準については来年度の編集委員会で最終決定される。
 - ・編集委員の大島由起子氏（アメリカ文学）の退任に伴い、後任を検討することが報告され、後日、検討の結果、鹿児島大学竹内勝徳教授が選出された。
 6. 支部事務局の交替・新支部長の選出について
 - ・事務局が九州大学から熊本県立大学に交替したこと、及び、熊本県立大学文学部教授、村里好俊氏の新支部長就任の報告があった。
 7. 支部選出本部理事・評議員の選出について
 - ・日本英文学会本部理事は村里支部長、同じく評議員は九州大学文学部、鶴飼信光教授が勤めるとの報告があった。
 8. 来年度の全国大会、及び、支部大会の開催大学について
 - ・全国大会は5月24日（土）、25日（日）に北海道大学札幌キャンパスにて。支部大会

は10月25日(土)、26日(日)に福岡女子大学にて開催予定。

9. その他

- ・事務局長の難波氏より、平成26年度予算案の提案があった。なお、25年度からの繰越金については、年度途中のため、概算額で計上されている。優秀論文賞、奨励賞が採択されれば、その経費も計上する。支部企画行事経費(寄付金支出)(講演料、旅費)、出版助成や若手を支援する経費も、今後検討することです承された。

◎支部ホームページ・アドレス

<http://kyushu-elsj.sakura.ne.jp/>

以上(文責 村里好俊)